



図書館を使った調べる学習コンクール

11月12日、『第7回伊万里市民図書館・学校図書館を使った調べる学習コンクール』の表彰式がありました。

これは、子どもの読書活動推進の一環として、平成28年度から開催しているものです。今回は、小学生から80点の応募があり、審査の結果、16点が受賞作品に選ばれました。

最優秀賞3点は、次のとおりです。

▽上野空之介さん

(大坪小2年)

『やるぞ、トカゲのしく!!』

▽田中蘭愛さん(大川小3年)

『月のふしぎ』

▽加藤 紬さん(伊万里小6年)

『卵によって値段がちがうのはなぜ?』



↑実際の現場や家庭での実験などを盛り込み作品を仕上げた受賞者の皆さん



働きたい人が働きやすい環境の整備

●問合先

企画政策課

男女協働推進係(☎23・2115)

私は保育園に勤めています。

新人の頃に、「よかねー。子どもと遊んで夏は涼しく、冬は温かい所におれて」と、しばしば人から言われたものです。

確かにエアコンの入った部屋で、子どもと一緒に遊んでいます。子どもと危険な事をしていないか、顔色は悪くないか、全員そろっているかなど常に配慮が必要で、気が抜けない仕事です。また、部屋を適切な温度・湿度に保つため、こまめな換気も欠かせず、子どもの睡眠時には、SIDS(乳幼児突然死症候群)の対策のため、定期的な呼吸、顔や身体への確認が必要

です。子どもの世話のほかに、事務作業やイベントの準備など、日中に仕事が終わらないことがたびたびあります。さて、保育士は平成15年11月に国家資格となり、専門職としての期待が高まる一方、保育現場の現状は厳しく、労働条件は変わらず負担は増え

てきています。また、ほかの福祉施設と比べると、圧倒的に男性の就労率は低いです。就労していても結婚を機に辞めてしまう人や賃金が低く、妊娠・出産すると、生活を維持できないとの理由で転職する人も少なくありません。

しかし、子どもたちの日々成長する姿や、かわいい笑顔を間近で見ると、毎日癒されパワーをもらっています。そして、保護者から「いつもありがとうございます」とねぎらいの言葉をもらい、保育士の仕事に理解を示してもらうと、心強くなり、「この仕事を続けてきてよかった」とやりがいを実感することが出来ます。

夢を持って保育士になった人が男性であっても女性であっても、保育士を続けられる、働きたい人が働きやすい環境が、1日でも早く整備されることを切に願っています。

【伊万里市男女協働参画懇話会「いまりプラザ」委員】

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝⑧

●問合先

生涯学習課歴史民俗資料館(☎22・7107)

染付秋草文皿(鍋島焼)

今月は、染付秋草文皿を紹介します。これは、1700〜1730年代に作られた鍋島焼です。

器形は、内ぐりが深く高台が高い、木盃型をした盛期鍋島の作品です。直径30・4センチの尺皿で、尺皿は江戸時代には鉢と呼ばれていました。

鍋島焼の七寸皿(大皿)や五寸皿(中皿)、三寸皿(小皿)は、組み物として20枚単位で作られていました。しかし、鉢は1点ものとして作られたため、盛期鍋島では、同じ時代の同じ図柄の作品は知られていません。

薄い染付で表された地面から、はぎなどの秋草を描き上げています。非対称な構図で、余白とのバランスが優れています。細密に描かれたはぎの花房には、や

や薄い染付を塗り重ね、また枝葉も濃淡の染付で描き分けるなど、さまざまな染付技法が使われています。

裏文様は、濃淡の染付を使い分けて丁寧に描かれた四つ玉の七宝結び文を3方に配し、高台には櫛歯文を巡らせています。

形や大きさ、裏文様など典型的な鍋島焼の名品です。●伊万里・鍋島ギャラリー ※入館料は無料です。(☎22・2267)



→染付秋草文皿